みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040
～高校教育の創造的再構築～

宮城県を一つの「学校」としてとらえ
どこに住んでいても質の高い学びにアクセスできる環境へ

VRを活用した授業のイメージ

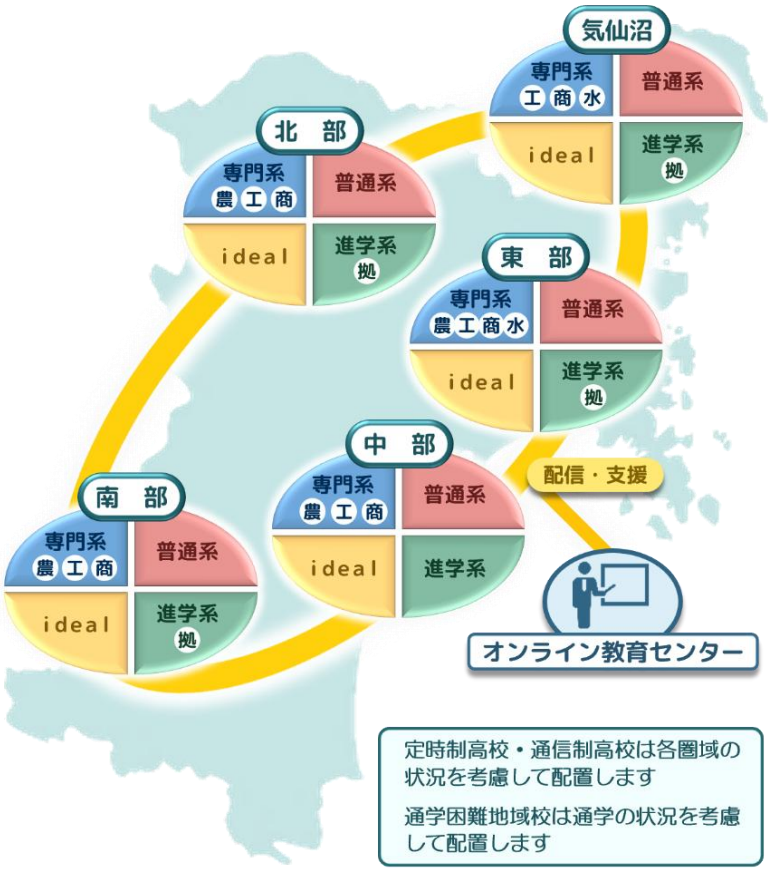


オンライン活用・海外交流のイメージ



栽培実習のイメージ





操船シミュレーター実習のイメージ



科学技術高校のイメージ



ｉｄｅａｌスクールのイメージ



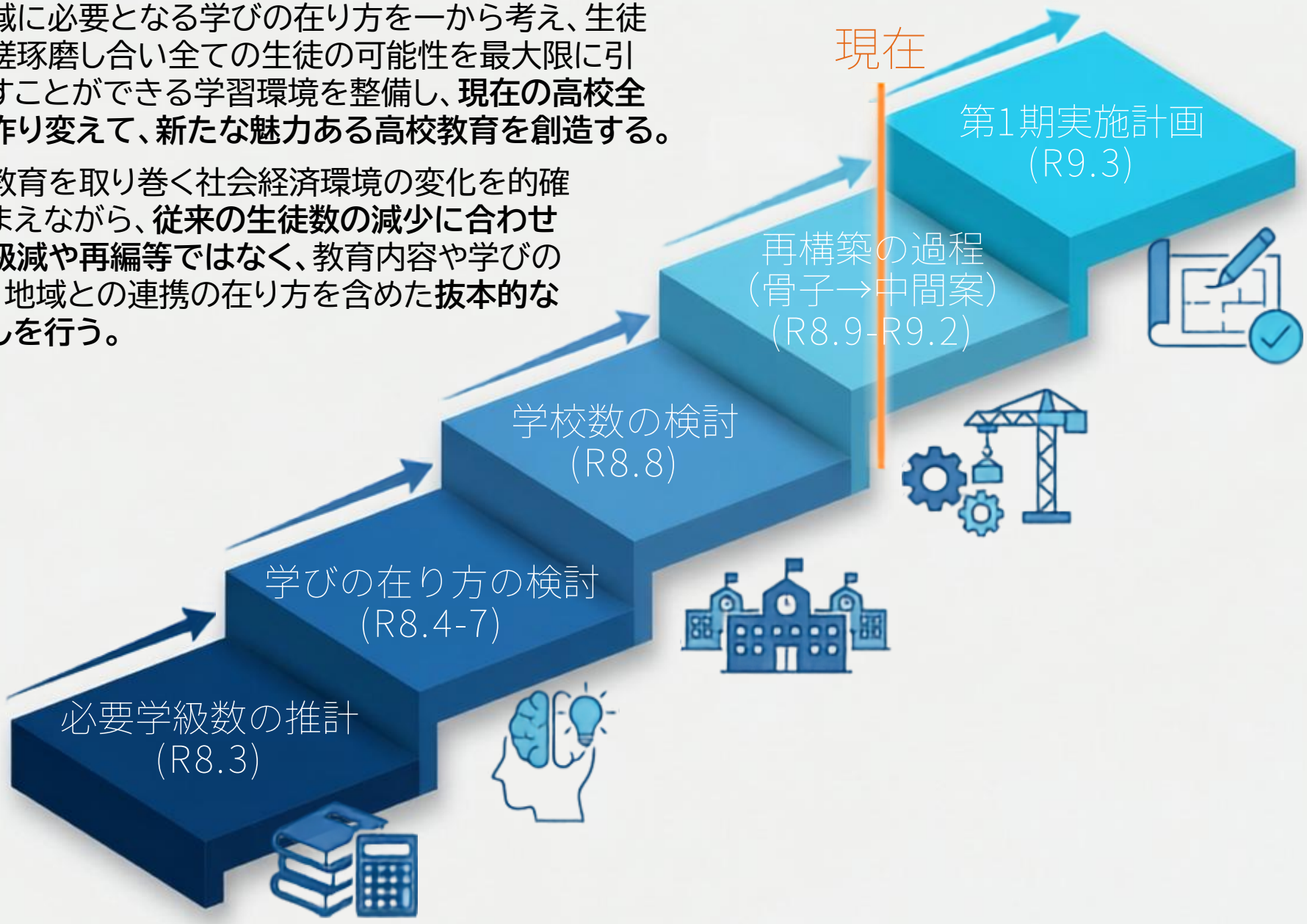
これまでの経緯

- ✓ みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040の策定に当たっては、市町村や中学生、産業界、学校現場など、広く県民の御意見を伺いながら策定した。
- ✓ 令和8年度は、令和9年度から令和13年度を期間とする第1期実施計画の策定に向けて、第1段階として、7月の文教警察委員会で各圏域における学びの類型及び学級数について公表後、各圏域に必要な学びについて、改めて市町村や中学生など広く県民の御意見を伺いながら検討している。

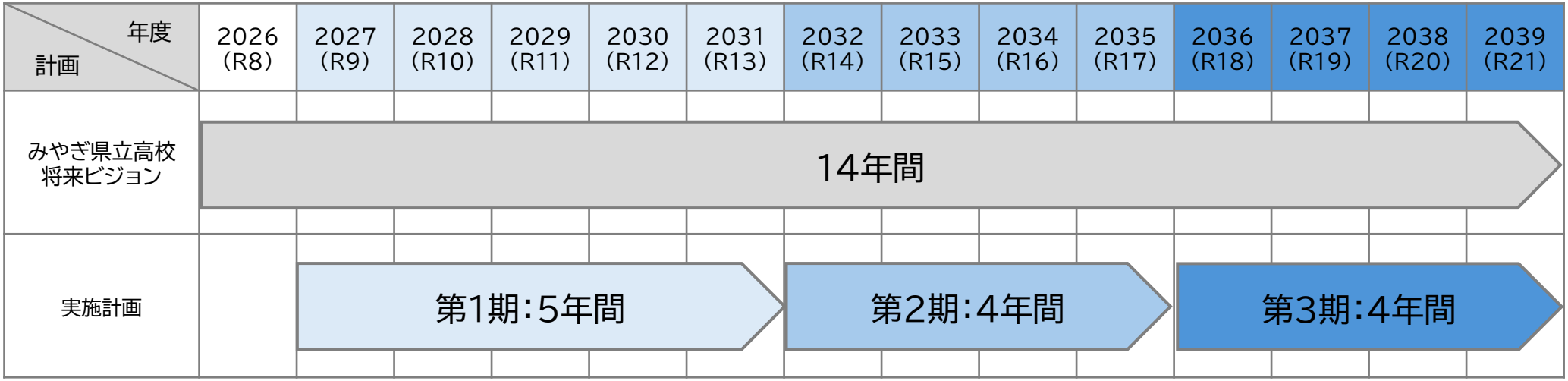
令和6年2月～令和8年3月	○みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040の策定 ・地区別在り方懇話会（市町村教育長等） ・地区別在り方説明会（広く県民） ・市町村長訪問による意見交換 ・中学生への意見聴取 ・産業界への意見聴取 ・パブリックコメント
令和8年4月	○第1期実施計画策定開始
令和8年7月	○文教警察委員会報告（R21学級数の公表） ・地区別在り方懇話会（市町村教育長等） ・地区別意見交換会（広く県民） ・中学生への意見聴取

高校教育の創造的再構築

- ✓ 各圏域に必要となる学びの在り方を一から考え、生徒が切磋琢磨し合い全ての生徒の可能性を最大限に引き出すことができる学習環境を整備し、**現在の高校全体を作り変えて、新たな魅力ある高校教育を創造する。**
- ✓ 高校教育を取り巻く社会経済環境の変化を的確に踏まえながら、**従来の生徒数の減少に合わせた学級減や再編等ではなく、**教育内容や学びの方法、地域との連携の在り方を含めた**抜本的な見直しを行う。**



- ✓ みやぎ県立高校将来ビジョンは、2026年度（令和8年度）から2039年度（令和21年度）までを計画期間とする。
- ✓ そのうち、第1期実施計画は2027年度（令和9年度）から2031年度（令和13年度）までの5年間とする。



✓ みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040　第1期実施計画　全体像

第1章　みやぎ県立高校将来ビジョン2026→2040の概要

１　基本理念

２　基本方針

３　各圏域における再構築後の姿

第2章　実施計画の策定

１　策定の趣旨

２　実施計画の期間

第3章　各圏域における学びの質の向上

１　普通科系の学び

(1)進学系拠点校

(2)普通科の改革の推進

２　専門学科系の学び

(1)先端技術に関する学び

(2)実社会に直結する実践的な学び

(3)各専門学科の学び

第3章　各圏域における学びの質の向上

３　多様な学び

(1)idealスクール

(2)定時制・通信制

(3)特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

４　小規模校における学び

５　オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

第4章　各圏域における高校配置

１　各圏域における学びの在り方

２　２０４０年までの高校配置の見通し

第５章　教育環境の整備

１　教職員の支援体制

２　生徒の相談・支援体制の構築

高校教育の創造的再構築に向けた柱となる取組について

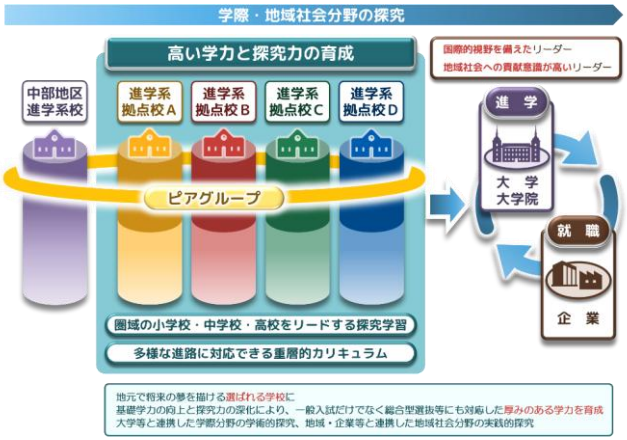
1 学力と探究を極め進学力も向上させる環境の整備

◆ 圏域ごとに**高い学力と探究力**を身に付けることを目指す**進学系拠点校等を配置**し、進学意識の高い生徒のための教育課程の充実など、希望進路の実現に向けた学習環境を整備する。

ピアグループのオンライン授業のイメージ



＜進学系拠点校のイメージ＞



◆ **普通科の改革の推進**により、地域の特色や社会的ニーズに応じた新たな学科の設置や、地域や大学等と連携した探究的な学びの推進など、総合的な探究の時間や学校設定科目などの活用により、従来の普通科の考え方にとらわれない学びを創出し、**地域や学校の特色に応じた魅力化を図る。**

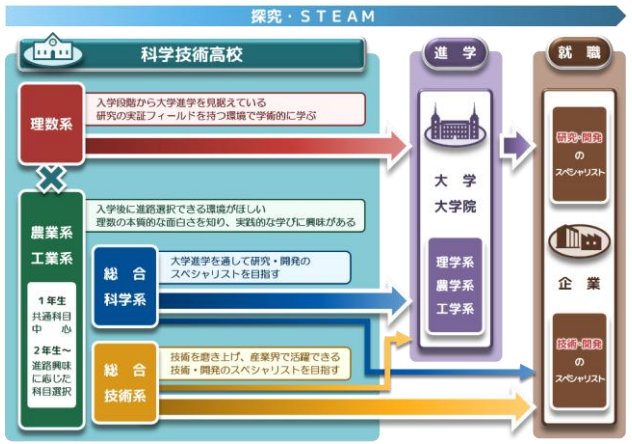
2 専門学科における実践的な学び

◆ 本県の基幹産業である農業、工業や水産業に関わる専門高校の基幹校では、大学や企業、研究施設との連携により、先端技術に関する学びを充実させ、オンライン等を活用し、その成果を学校間で共有する。

◆ 農業系及び工業系の学びに理数系の学びを取り入れることなどによる、データサイエンスや環境技術、バイオテクノロジーなど、**先端科学技術や地域産業の発展に寄与できるスペシャリストの育成を目指す、科学技術高校の設置を検討する。**

◆ 水産については、**6次産業化や海洋資源の活用など、地域の特色を活かした学び**の機会を提供する。

＜科学技術高校のイメージ＞



◆ 基幹校以外では、異なる分野の学びを組み合わせることや、連携することで、複数分野にまたがる知識や技術を身に付け、より実社会と結び付いた総合的な力を育む学びの機会を提供する。

3 多様な学びのニーズへの対応

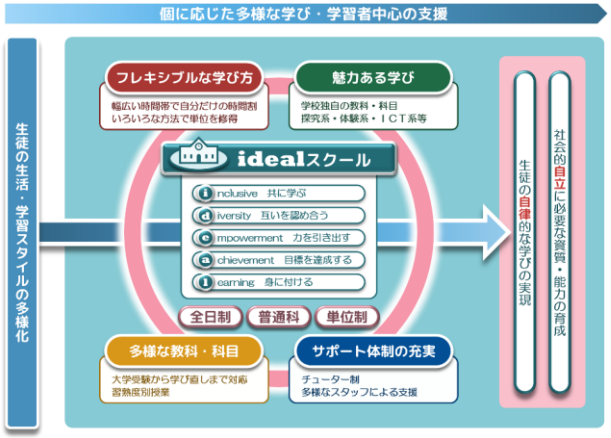
◆ 生徒の多様な生活・学習スタイルに応じて**フレキシブルに学ぶことのできる学習者中心のｉｄｅａｌスクール**の柔軟な授業時間やカリキュラムの設定、チューター制の導入、個に応じた学習を支える体制の有効性などの実績を踏まえ、他地域への拡充を検討する。

◆ 定時制高校の現状を踏まえながら、ｉｄｅａｌスクールで取り組んだ実績を活用し、生徒の多様な学習スタイルや生活状況により一層対応できる教育の在り方を検討する。

◆ 通信制高校（課程）のニーズを踏まえながら、スクーリング拠点や通信制高校の増設を行うことで、場所や時間にとらわれず学べる学習機会の充実を図り、安心して学びを継続できる環境を整備する。

◆ 配慮や支援の有無に関わらず、互いを尊重し協働できる環境の整備として、高校と特別支援学校の併置や連携等による、生徒の交流及び共同学習を通じて、共生社会の実現に向けたインクルーシブ教育の推進を図る。

＜ｉｄｅａｌスクールのイメージ＞



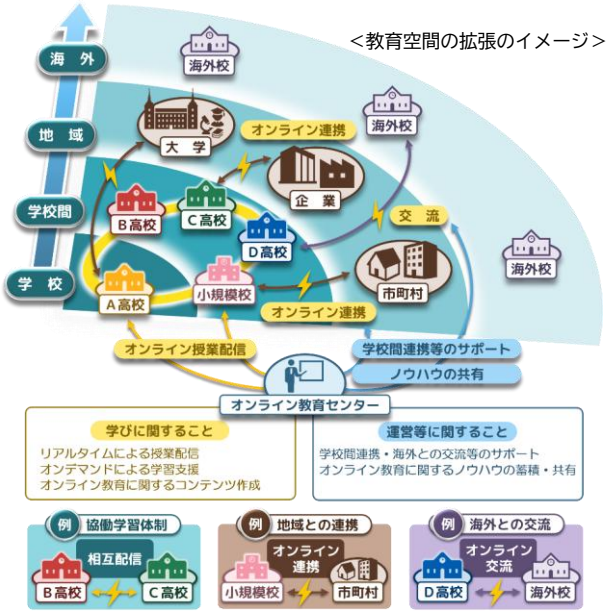
4 オンラインの効果的な活用などによる教育空間の拡張

◆ 小規模校においては、人間関係の固定化が生じやすいことや、多様な価値観に触れる機会が少ないこと、また、教職員数など教育資源に限りがあるため、オンラインや地域連携などを活用し、教育環境を整える必要がある。

◆ オンラインの効果的な活用などにより、ピアグループを形成し、他の進学系拠点校や中部地区の進学系高校と連携した授業の相互配信等による充実した学習環境を整備する。

◆ **オンライン教育センターの設置**により、**学びの質を確保**するとともに、専門的な学びや希望する進路への対応など、生徒の多様な教育的ニーズに応じた教育環境を整備する。

＜教育空間の拡張のイメージ＞



✓ 高校教育の創造的再構築に向けた取組として、主に文部科学省のN-E.X.T.ハイスクール構想関係基金を活用して、下記の4つの事業をはじめとした様々な事業を展開する。

オンラインの効果的な活用などによる教育空間の拡張

全ての県立高校（オンライン教育センター）　学びの量的・質的充実

1　全県立高校のレベルアップに向けた、オンラインをフル活用した教育空間の拡張（オンライン教育センターの設置）

- 小規模校への多様な科目（座学→実技系）配信。
- 習熟度別授業への対応のため学習コンテンツを蓄積し、オンデマンドで展開。
- 全県立高校をネットワーク化した上で、デジタルとリアルの効果的な組み合わせにより、探究活動の相互発表や交流を進め、学びを深めることで、県内のどこに住んでいても生徒の興味・関心や多様な進路希望に対応できる教育環境を整備。
- 拠点となるオンライン教育センターを仙台第二高校敷地内に設置。大学や企業と連携し、創造性・多様化を取り入れていく。





■主な整備内容
・電子黒板
・配信用カメラ、PC、マイク・スピーカー
・3Dスキャナ等





学力と探究を極め進学力も向上させる環境の整備

4圏域【白石・古川・石巻・気仙沼】進学系拠点校＋ナンバースクール　進学力向上

2　全県下の進学力向上に向けた、4圏域拠点校と仙台市内ナンバースクールとの県立高校連合

- 県内どこに住んでいても、希望する進路実現ができるよう、白石高、古川高、石巻高、気仙沼高の生徒が、仙台第一高、仙台第二高、仙台第三高、宮城第一高、仙台二華高の各校の特色・強みのある授業を受けることができる環境を整備。
- 4拠点校からも発信し、9校で文理横断型の課外講習、合同学習等の取組を展開。
- 仙台第一高の旧通信制課程教室等を活用し、対象9校の生徒、教員が参集できるラボスペースを設置。
- 進学力向上のため授業を支える予習・復習コンテンツを開発。



■主な整備内容
・オンライン会議等用映像配信機器
・文理横断(STEAM)学習用データ分析・試作等機器
・つまずきを解消するためのオンライン学習環境の整備





専門学科における実践的な学び

県工業高校　専門学科の実践的な学び

3　県内企業で活躍する人材育成に向けた、県工業高校のアップデートと県内工業系高校による共同利用

- 生産性向上など実際の企業活動を視野に入れた実践的な内容を取り入れ、最先端の研究開発だけでなく、生産技術、品質保証など企業活動を下支えできる人材の育成を目指す（⇒ 生産安定に寄与）。
- 実際の企業で使われるコンピュータ制御の複合型工作機械、産業用ロボット等を導入し、機械加工技術のみならず、機械制御技術も学ぶなど、学科横断で実社会につながる学びを実践。
- ネットワーク環境を強化し、県内工業系高校からの遠隔操作や企業・大学とのデータ共有も可能に。
- 校外開放スペースを設け、小・中学生をはじめとする地域に開かれたエリアに。



■主な整備内容
・５軸マシニングセンタ
・ロボットアーム
・独立データサーバー
・データ解析用ＰＣ
・VR/AR関係機材



県水産高校　専門学科の実践的な学び

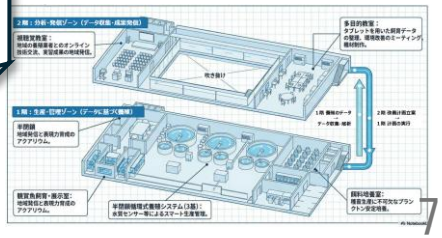
4　持続可能な漁業に向けた、次世代型「陸上養殖・水産イノベーション教育拠点」の整備

- 半閉鎖循環式陸上養殖施設を整備し、AIやIoTによるデータを活用した水温・水質管理を取り入れることで、持続可能な養殖教育を推進。
- 陸上養殖を通じ、バイオテクノロジー、ICT、水質管理、自動化制御など、先進的な技術を習得。
- 商業などの他学科と連携し、商品開発や流通・販売の視点を取り入れた学習を通じて、水産資源の６次産業化を含む実社会に直結した総合的な学びを展開。

■主な整備内容
・半閉鎖循環式陸上養殖施設
・水中ドローン
・IoTセンサー







✓ 令和9年4月に、2校が開校

新たなタイプの学校の広瀬ideal高校 、 食をテーマとした様々な学びを展開する大崎創成高校

多様な学びのニーズへの対応

広瀬ideal高校　　募集定員　２００名　全日制　普通科　単位制

- スクール・コンセプトは、「自分開花」
  個性やスタイルを尊重し、可能性を丁寧に育むことで、生徒一人一人が自分らしい花を咲かせられるようにサポートします。
- 生徒の「学びたい」を大切に
  大学進学から学び直しまで、豊富な科目から高校生活を自分でデザイン。
  夢や希望の実現を後押しする、これまでにない新たなタイプの高校です。
- この学校独自の「特色ある授業」　☆マークは生成AIで作成したイメージ図

『ideal探究デザイン』
・STEAMエコシステム　・STEAM地域学　・STEAMデータサイエンス
・使える 社会・言語　・使える 理数・情報



○ 知識だけでなく、**活用できる力**を身に付ける
○ 自分で問題を見つけて、深めていく
○ 見方を切りかえる発想力を鍛える
○ **構成された探究**をとおして、本質を追求



『トゥモロー・トライアル』
・ジョブ・インターンシップ　・アントレプレナーシップ
・アカデミック・インターンシップ

○ 学校の外にある学びをどんどん活用
○ 色々な体験を通して、自分に合う力を見つける
○ **社会で生きていくために必要な力**を身につける

『ベーシック・ラーニング』
・国、社、数、理、英の各ベーシック・ラーニング
・総合ベーシック（国、数、英）

○ 何を学ぶか、何を使ってどう学ぶか、どう進めていくかを**自分で選択し、学習していく**
○ 将来役立つ、**「学び方」を学ぶ**



ラーニングコモンズのイメージ図



『ビジネス・テクノロジー』
・情報活用アドバンス　・ソフトウェア実践
・プログラミング実践A、B

※令和10年度開講予定
※教科・科目名は仮称

○ ICT関係について、高度な内容が学べる
○ 変化・進化の早いICT領域の、**先を見据えた学び**

専門学科における実践的な学び

大崎創成高校　募集定員１６０名　全日制　アグリ・フード・ビジネス科　単位制

- 大崎創成高校は、宮城県では初めてとなる専門分野を学べる「単位制」の高校。
- 農業・家庭・商業の３分野を学ぶ「アグリ・フード・ビジネス科」を設置し、商品の生産から加工、販売までを実践的に学ぶ６次産業化の学びを展開。
- 生徒自身が企画から運営までを行う「高校生カフェ」を設置し、自分たちで栽培した野菜や果物、地域の食材や他校の生産品も取り入れながら、地域社会とつながる交流の拠点を目指す。
  - ◆各専門分野の学びを活かしながら、企画運営を生徒が行う。
  - ◆地域の食材や、他校の生産品も活用しながら、魅力のある食の開発・提供を行う。
  - ◆県内の高校や地域と連携し、交流の場として活用する。





✓ みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040　第1期実施計画　全体像

第1章　みやぎ県立高校将来ビジョン2026→2040の概要

１　基本理念

２　基本方針

３　各圏域における再構築後の姿

第2章　実施計画の策定

１　策定の趣旨

２　実施計画の期間

第3章　各圏域における学びの質の向上

１　普通科系の学び

(1)進学系拠点校

(2)普通科の改革の推進

２　専門学科系の学び

(1)先端技術に関する学び

(2)実社会に直結する実践的な学び

(3)各専門学科の学び

第3章　各圏域における学びの質の向上

３　多様な学び

(1)idealスクール

(2)定時制・通信制

(3)特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

４　小規模校における学び

５　オンラインの効果的な活用による教育空間の拡張

第4章　各圏域における高校配置

１　　各圏域における学びの在り方

２　　２０４０年までの高校配置の見通し

第５章　　教育環境の整備

１　　教職員の支援体制

２　　生徒の相談・支援体制の構築

高校配置の基本的な考え方

全体方針

✓ ビジョンの終期となる令和21年度の高校配置を見据えながら、従来の生徒数の減少に合わせた単なる学級減等ではなく、教育内容や学びの方法等を踏まえた学校規模の見直しや学科改編により、高校教育の抜本的な見直しを行う。

学校規模

✓ 1学年当たりの適正な学校規模（学級数）は定めないものの、圏域ごとに必要な学級数を設定し、一定の学校規模を確保する。

✓ 本計画における学級数は40人学級で推計するが、今後、制度の変更が行われた場合等には、35人学級や30人学級などの学級規模で推計を行う。

✓ 少子化の進展や高校教育に対するニーズの変化等を踏まえ、毎年、中学校卒業者見込数及び必要学級数を見直す。

高校配置

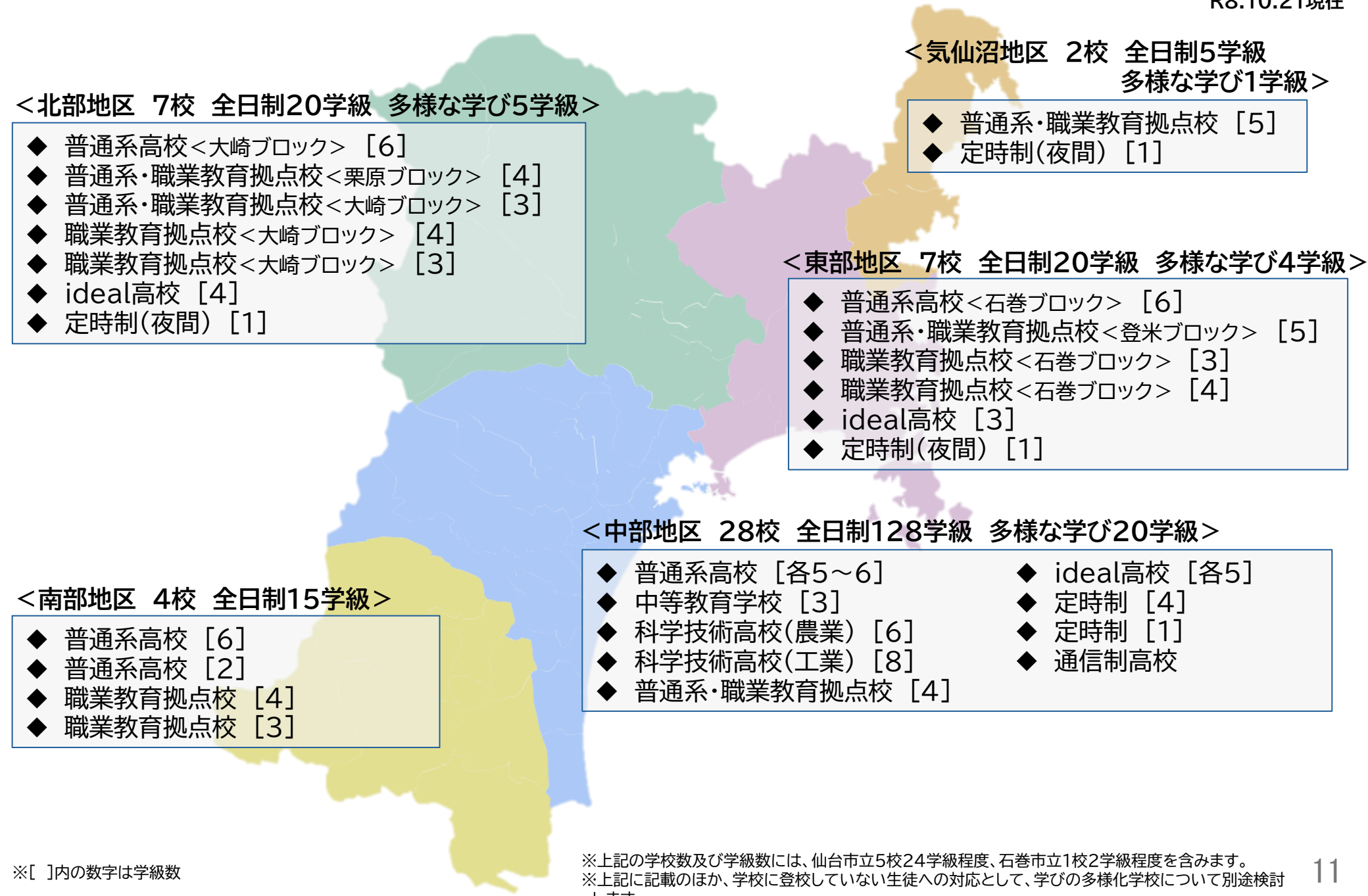
✓ 専門系の学びについては、フィールドの関係から、キャンパス校の活用も検討する。

✓ 早朝に公共交通機関に乗車しなければ始業に間に合わない地域や、通学に一定の時間を要する「通学困難地域」には、通学困難地域校としての継続配置、又はスクールバス等の通学・移動手段の確保を検討する。

スケジュール

✓ 具体的な高校配置については、再編・統合となる約5年前に公表し、検討を進める。

R8.10.21現在



＜北部地区　7校　全日制20学級　多様な学び5学級＞

- 普通系高校＜大崎ブロック＞［6］
- 普通系・職業教育拠点校＜栗原ブロック＞［4］
- 普通系・職業教育拠点校＜大崎ブロック＞［3］
- 職業教育拠点校＜大崎ブロック＞［4］
- 職業教育拠点校＜大崎ブロック＞［3］
- ideal高校［4］
- 定時制(夜間)［1］

＜気仙沼地区　2校　全日制5学級　多様な学び1学級＞

- 普通系・職業教育拠点校［5］
- 定時制(夜間)［1］

＜東部地区　7校　全日制20学級　多様な学び4学級＞

- 普通系高校＜石巻ブロック＞［6］
- 普通系・職業教育拠点校＜登米ブロック＞［5］
- 職業教育拠点校＜石巻ブロック＞［3］
- 職業教育拠点校＜石巻ブロック＞［4］
- ideal高校［3］
- 定時制(夜間)［1］

＜中部地区　28校　全日制128学級　多様な学び20学級＞

- 普通系高校［各5～6］
- 中等教育学校［3］
- 科学技術高校(農業)［6］
- 科学技術高校(工業)［8］
- 普通系・職業教育拠点校［4］
- ideal高校［各5］
- 定時制［4］
- 定時制［1］
- 通信制高校

＜南部地区　4校　全日制15学級＞

- 普通系高校［6］
- 普通系高校［2］
- 職業教育拠点校［4］
- 職業教育拠点校［3］

※［ ］内の数字は学級数

※上記の学校数及び学級数には、仙台市立5校24学級程度、石巻市立1校2学級程度を含みます。
※上記に記載のほか、学校に登校していない生徒への対応として、学びの多様化学校について別途検討します。

R7の配置状況　中学校卒業者見込数(R7.3):19,265人

○全日制設置学級数:338学級　※R7全日制必要学級数:305学級
○定時制設置学級数:25学級　○通信制:500名

1 全日制

	学校数	圏域別					
		南部	中部	大崎	栗原	石巻	登米	気仙沼
普通系高校		5	24	7	2	3	2	2
農業高校			1	1				
工業高校		1	1	1		1		
商業高校				1	1	1		
水産高校						1		
複数学科を有する専門高校		1					1	1
総合学科		2		1	1	1		1
県立学校数計	**64**	9	26	11	4	7	3	4
市立仙台			1					
市立仙台工業			1					
市立仙台商業			1					
市立桜坂						1		
市立学校数計	**4**		3			1		
県立＋市立計	**68**	9	29	11	4	8	3	4

※普通系高校には、普通科と専門学科が併設されている高校を含む。
※複数学科を有する専門高校とは、農業科及び商業科、水産科及び商業科などの学科が併設されている高校を指す。

2 定時制等

	学校数	圏域別					
		南部	中部	大崎	栗原	石巻	登米	気仙沼
定時制(昼間)		1		1		1		
定時制(夜間)			2	1			1	1
定時制(昼間・夜間)			1			1		
県立学校数計	**10**	1	3	2		2	1	1
市立仙台大志			1					
市立仙台工業			1					
市立学校数計	**2**		2					
県立＋市立計	**12**	1	5	2		2	1	1
通信制	**1**		1					

R21年春の姿　中学校卒業者見込数(R21.3):12,240人

○全日制必要学級数見込み:188学級(40人学級換算)※ideal高校の再掲分含む
○多様な学びへの対応:30学級　○通信制:500名

1 全日制

	学校数	圏域別				
		南部	中部	北部	東部	気仙沼
普通系高校		2	14	1	1	
中等教育学校			1			
普通系・職業教育拠点校			1	2	1	1
職業教育拠点校		2		2	2	
科学技術高校			2			
(再掲)ideal高校			2			
県立学校数計	**34**	4	20	5	4	1
市立仙台			1			
市立仙台工業			1			
市立仙台商業			1			
市立桜坂					1	
市立学校数計			3		1	
県立＋市立計	**38**	4	23	5	5	1

2 多様な学び

	学校数	圏域別				
		南部	中部	北部	東部	気仙沼
ideal高校			2	1	1	
定時制(夜間)			1	1	1	1
定時制(昼間・夜間)			1			
県立学校数計	**9**		4	2	2	1
市立仙台大志			1			
市立仙台工業			1			
市立学校数計	**2**		2			
県立＋市立計	**11**		6	2	2	1
通信制	**1**		1			

※全日制高校と定時制(夜間)を併置する場合には1校とする場合もあります。
※上記に記載のほか、学校に登校していない生徒への対応として、学びの多様化学校について別途検討します。

R7の配置状況　中学校卒業者見込数(R7.3):1,349人

学校数		学級数							
		学科別							
9		普通	体育	農業	工業	商業	看護	総合
白石	7	6					1	
角田	4	4						
柴田	4	3	1					
白石蔵王	1	1						
大河原産業川崎	1	1						
大河原産業	6			2		4		
白石工業	6				6			
村田	3							3
伊具	3							3
全日制計	**35**	15	1	2	6	4	1	6
必要学級数	**28**	43%	3%	6%	17%	11%	3%	17%

学校数		学級数						
		学科別						
1		普通	体育	農業	工業	商業	看護	総合
白石七ヶ宿(昼間)	1	1						
定時制計	**1**	1						

R21年春の姿　中学校卒業者見込数(R21.3):641人

学校数		学級数						
		学びの類型						
4		進学系	普通系	農業系	工業系	商業系	看護系
①普通系高校	6	1	4				1
②普通系高校	2		2				
③職業教育拠点校	4			1		3	
④職業教育拠点校	3				3		
全日制計	**15**	1	6	1	3	3	1
必要学級数見込み	**15**	7%	40%	7%	20%	20%	7%

※圏域でアイデアルの要素を取り入れ、多様な生徒へのニーズに対応します。
※通学困難地域校を最終的な配置を踏まえて検討します。

<参考:R7→R21の中学校卒業者見込数>　(人)

市町村	R7	R21	市町村	R7	R21
白石市	251	119	村田町	79	38
角田市	244	116	柴田町	307	146
蔵王町	93	44	川崎町	49	23
七ヶ宿町	12	6	丸森町	86	41
大河原町	228	108	計	1,349	641

※中学校卒業者見込数は幼児人口(1歳から5歳)及び小中学校の在籍者数に直近5年間の社会増減の平均値を考慮して推計しています。
※みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040に用いているR6.5時点の推計値です。

R7の配置状況　中学校卒業者見込数(R7.3):13,315人

学校数		学級数											
		学科別											
		普通系							農業	工業	商業	家政
29		普通	理数	体育	美術	英語	国際	災害				
仙台第一	8	8										
仙台第二	8	8										
仙台第三	8	6	2									
塩釜	8	6									2	
宮城第一	7	5	1				1					
仙台南	7	7										
仙台三桜	7	7										
多賀城	7	6						1				
利府	7	5		2								
名取	7	6										1
仙台二華	6	6										
泉館山	6	6										
泉松陵	6	6										
仙台西	6	6										
宮城広瀬	6	6										
富谷	6	6										
名取北	6	6										
宮城野	6	5				1						
仙台東	6	5					1					
泉	6	5					1					
仙台向山	5	4	1									
黒川	5	2								3		
亘理	4	2							1			1
松島	4	2									2	
農業	6								6			
工業	8									8		
市立仙台	8	8										
市立仙台工業	6									6		
市立仙台商業	8										8	
全日制計	**188**	139	4	2	1	2	1	1	7	17	12	2
必要学級数	**189**	74%	2%	1%	1%	1%	1%	1%	4%	9%	6%	1%

R21年春の姿　中学校卒業者見込数(R21.3):9,263人

学校数		学級数						
		学びの類型						
23		進学系	普通系	農業系	工業系	商業系	家政系	ideal
①普通系高校	6	6						
②普通系高校	6	6						
③普通系高校	6	6						
④普通系高校	6	6						
⑤普通系高校	6	6						
⑥普通系高校	6	6						
⑦普通系高校	6	6						
⑧普通系高校	5	5						
⑨普通系高校	6		6					
⑩普通系高校	5		5					
⑪普通系高校	5		5					
⑫普通系高校	5		5					
⑬普通系高校	5		5					
⑭普通系高校	5		3			2		
⑮中等教育学校	3	3						
⑯科学技術高校(農業)	6			6				
⑰科学技術高校(工業)	8				8			
⑱普通系・職業教育拠点校	4		1		3			
⑲(再掲)ideal高校	5	※ideal高校は次頁多様な学びの再掲						5
⑳(再掲)ideal高校	5						1	4
県立全日制計	**109**	50	30	6	11	2	1	9
	–	46%	28%	5%	10%	2%	1%	8%
㉑市立仙台 ㉒市立仙台工業 ㉓市立仙台商業		※市立のため、市教委と学級数等について、今後調整						
市立全日制計								
県立＋市立計	**128**							
必要学級数見込み	**128**							

※理数、体育、美術、英語、国際、災害科学の学びは進学系・普通系に含まれます。
※上記学級数に仙台市立の中等教育学校の学級数は含まれません。
※学びの類型ごとの学級数及び全体の学級数は、仙台市教育委員会との調整の結果、変動する可能性があります。

中部地区その2

R7の配置状況

学校数	学級数		
		学科別	
6		普通	工業
貞山(昼3、夜1)	4	4	
市立仙台大志 (Ⅰ部3、Ⅱ部1)	4	4	
第二工業(夜間)	2		2
市立仙台工業(夜間)	2		2
名取(夜間)	1	1	
定時制計	13	9	4
美田園		500	※定員数

R21年春の姿

学校数	学級数				
		学びの類型			
7		普通系	工業系	家政系	ideal
①ideal高校	5				5
②ideal高校	5			1	4
③定時制(昼3、夜1)	4	4			
④定時制(夜間)	1	1			
県立計	15	5		1	9
⑤市立仙台大志 (Ⅰ部、Ⅱ部) ⑥市立仙台工業(夜間)		※市立のため、市教委と学級数等について、今後調整			
市立計					
県立＋市立計	20				
⑦通信制高校		500	※定員数		

※学びの類型ごとの学級数及び全体の学級数は、仙台市教育委員会との調整の結果、変動する可能性があります。
※全日制高校と定時制(夜間)を併置する場合には1校とする場合もあります。
※通学困難地域校を最終的な配置を踏まえて検討します。

＜参考：R7→R21の中学校卒業者見込数＞　（人）

市町村	R7	R21	市町村	R7	R21	市町村	R7	R21
仙台市	9,145	6,362	富谷市	634	441	利府町	379	264
塩竈市	398	277	亘理町	292	203	大和町	265	184
名取市	819	570	山元町	75	52	大郷町	64	44
多賀城市	525	365	松島町	96	67	大衡村	47	33
岩沼市	411	286	七ヶ浜町	165	115	計	13,315	9,263

※中学校卒業者見込数は幼児人口(1歳から5歳)及び小中学校の在籍者数に直近5年間の社会増減の平均値を考慮して推計しています。
※みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040に用いているR6.5時点の推計値です。

R7の配置状況（大崎）　中学校卒業者見込数（R7.3）：1，669人

学校数		学級数						
		学科別						
11		普通	農業	工業	商業	家政	総合
古川	6	6					
古川黎明	6	6					
涌谷	3	3					
中新田	3	3					
岩出山	2	2					
鹿島台商業・松山・南郷	6	2	1		2	1	
加美農業	3		3				
小牛田農林	5		2				3
古川工業	6			6			
全日制計	**40**	22	6	6	2	1	3
必要学級数	**30**	55%	15%	15%	5%	3%	8%

学校数		学級数					
		学科別					
2		普通	農業	工業	商業	家政	総合
田尻さくら	3	3					
古川工業（夜間）	2			2			
定時制計	**5**	3		2			

R7の配置状況（栗原）　中学校卒業者見込数（R7.3）：447人

学校数		学級数		
		学科別		
4		普通	商業	総合
築館	4	4		
岩ヶ崎	2	2		
築館一迫商業	1		1	
迫桜	4			4
全日制計	**11**	6	1	4
必要学級数	**9**	55%	9%	36%

R21年春の姿　中学校卒業者見込数（R21.3）：1，096人

学校数		学級数						
		学びの類型						
5		進学系	普通系	農業系	工業系	商業系	家庭系
①普通系高校 ＜大崎ブロック＞	6	1	5				
②普通系・職業教育拠点校 ＜栗原ブロック＞	4				4 ○ ○ ○ ○ ※キャンパス校活用想定		
③普通系・職業教育拠点校 ＜大崎ブロック＞	3		1	1		1 ※キャンパス校活用想定	
④職業教育拠点校 ＜大崎ブロック＞	4					4 ○ ○ ○	
⑤職業教育拠点校 ＜大崎ブロック＞	3				3		
全日制計	**20**	1	7	4	4	3	1
必要学級数見込み	**20**	5%	35%	20%	20%	15%	5%

※②、④の高校の学びの類型ごとの学級数は、生徒の希望により変動する可能性があります。その結果、学びの類型ごとの学級数が変動する可能性があります。

学校数		多様な学びへの対応					
		学びの類型					
2		ideal	普通系	農業系	工業系	商業系	家庭系
①ideal高校（全日制）	4	4					
②定時制（夜間）	1		1				
多様な学び計	**5**	4	1				

※ideal高校と定時制（夜間）を併置する場合には1校とする場合もあります。
※通学困難地域校を最終的な配置を踏まえて検討します。
※専門系の学びは、フィールドの関係から、キャンパス校の活用も想定しています。

＜参考：R7→R21の中学校卒業者見込数＞　（人）

市町村	R7	R21	市町村	R7	R21
栗原市	447	194	涌谷町	105	57
大崎市	1,163	629	美里町	193	104
色麻町	64	34	計	2,116	1,096
加美町	144	78			

※中学校卒業者見込数は幼児人口（1歳から5歳）及び小中学校の在籍者数に直近5年間の社会増減の平均値を考慮して推計しています。
※みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040に用いているR6.5時点の推計値です。

R7の配置状況（石巻）　中学校卒業者見込数（R7.3）：1，403人

学校数		学級数					
		学科別					
8		普通	工業	商業	水産	総合	
石巻	6	6					
石巻好文館	5	5					
石巻西	4	4					
石巻工業	5		5				
石巻商業	4			4			
水産	3				3		
石巻北	4					4	
市立桜坂	4	4					
全日制計	35	19	5	4	3	4	
必要学級数	28	54%	14%	11%	9%	11%	

学校数		学級数					
		学科別					
2		普通	工業	商業	水産	総合	
東松島（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）	3	3					
石巻北飯野川（昼間）	1	1					
定時制計	4	4					

R7の配置状況（登米）　中学校卒業者見込数（R7.3）：615人

学校数		学級数					
		学科別					
3		普通	農業	工業	商業	福祉	
佐沼	6	6					
登米	2	2					
登米総合産業	6		1	3	1	1	
全日制計	14	8	1	3	1	1	
必要学級数	11	57%	7%	21%	7%	7%	

学校数		学級数					
		学科別					
1		普通	農業	工業	商業	福祉	
佐沼（夜間）	1	1					
定時制計	1	1					

R21年春の姿　中学校卒業者見込数（R21.3）：1，029人

学校数		学級数						
		学びの類型						
5		進学系	普通系	農業系	工業系	商業系	水産系	
①普通系高校 ＜石巻ブロック＞	6	1	5					
②普通系・職業教育拠点校 ＜登米ブロック＞	5		3	1	1			※キャンパス校活用想定
③職業教育拠点校 ＜石巻ブロック＞	3				3			
④職業教育拠点校 ＜石巻ブロック＞	4					2	2	
全日制計	18	1	8	1	4	2	2	
	－	6%	44%	6%	22%	11%	11%	
⑤市立桜坂		※市立のため、市教委と学級数等について、 今後調整						
市立全日制計								
県立＋市立計	20							
必要学級数見込み	20							

※学びの類型ごとの学級数及び全体の学級数は、石巻市教育委員会との調整の結果、変動する可能性があります。

学校数		多様な学びへの対応					
		学びの類型					
2		ideal	普通系	農業系	工業系	商業系	水産系
①ideal高校（全日制）	3	3					
②定時制（夜間）	1		1				
多様な学び計	4	3	1				

※ideal高校と定時制（夜間）を併置する場合には1校とする場合もあります。
※通学困難地域校を最終的な配置を踏まえて検討します。
※専門系の学びは、フィールドの関係から、キャンパス校の活用も想定しています。

＜参考：R7→R21の中学校卒業者見込数＞　（人）

市町村	R7	R21	市町村	R7	R21
石巻市	1,062	560	女川町	30	16
登米市	615	290	計	2,018	1,029
東松島市	311	163			

※中学校卒業者見込数は幼児人口（1歳から5歳）及び小中学校の在籍者数に直近5年間の社会増減の平均値を考慮して推計しています。
※みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040に用いているR6.5時点の推計値です。

R7の配置状況　中学校卒業者見込数(R7.3):467人

学校数		学級数					
		学科別					
		普通	工業	商業	水産	総合
4						
気仙沼	6	6				
南三陸	3	2		1		
気仙沼向洋	3		1		2	
本吉響	3					3
全日制計	15	8	1	0	2	3
必要学級数	10	53%	7%	7%	13%	20%

学校数		学級数				
		学科別				
		普通	工業	商業	水産	総合
1						
気仙沼(夜間)	1	1				
定時制計	1	1				

R21年春の姿　中学校卒業者見込数(R21.3):211人

学校数		学級数			
		学びの類型			
		進学系	普通系	工業系 商業系 水産系	
1					
普通系・職業教育拠点校	5	1	2	2 ※キャンパス校活用想定	
全日制計	5	1	2	2	
必要学級数見込み	5	20%	40%	40%	

学校数		多様な学びへの対応			
		学びの類型			
		普通系	工業系	商業系	水産系
1					
定時制(夜間)	1	1			
多様な学び計	1	1			

※圏域でアイデアルの要素を取り入れ、多様な生徒へのニーズに対応します。
※通学困難地域校を最終的な配置を踏まえて検討します。

<参考:R7→R21の中学校卒業者見込数>　(人)

市町村	R7	R21
気仙沼市	399	180
南三陸町	68	31
計	467	211

※中学校卒業者見込数は幼児人口(1歳から5歳)及び小中学校の在籍者数に直近5年間の社会増減の平均値を考慮して推計しています。
※みやぎ県立高校将来ビジョン 2026→2040に用いているR6.5時点の推計値です。

今後のスケジュール

R8.10.21現在

- ✓ 引き続き市町村や県民、中学生、産業界の御意見を伺いながら、丁寧に検討を進めていく。
- ✓ 「R21春の姿」は決定事項ではなく、御意見を伺った上で、変更が生じることもあり、毎年、少子化の進行等を踏まえ、見直しを行いながら進めていく。
- ✓ 実施計画中間案に対して、教職員に対するアンケート調査を実施する。

10月21日	○文教警察委員会報告（R21学校数の公表）
10月下旬～11月上旬	○県民との意見交換会 （中部・北部10/24、東部・気仙沼10/25、南部11/7） ○市町村教育委員会等との懇話会
11月中旬	○県立高等学校将来構想審議会（実施計画中間案） ○パブリックコメント
12月中旬	○文教警察委員会報告（実施計画中間案）
1月中	○市町村への説明
2月12日	○教育委員会で第1期実施計画決定
3月	○文教警察委員会報告（第1期実施計画）






第１期実施計画の最大のねらいは、

県立高校の再編により、最新の教育環境を整え、

個別最適な新たな学びの場を実現することです。



